

幸手市文化遺産だより



VOL.17

● 米どころ幸手に伝わる藁の文化遺産

1



藁の文化

わら の ぶんか

米どころ幸手に伝えられた

今回は、幸手市郷土資料館が近年調査した「米どころ幸手」に伝わる「藁の文化」として注目されている各地区の「大蛇づくり」について紹介します。



幸手市郷土資料館



新指定文化財紹介

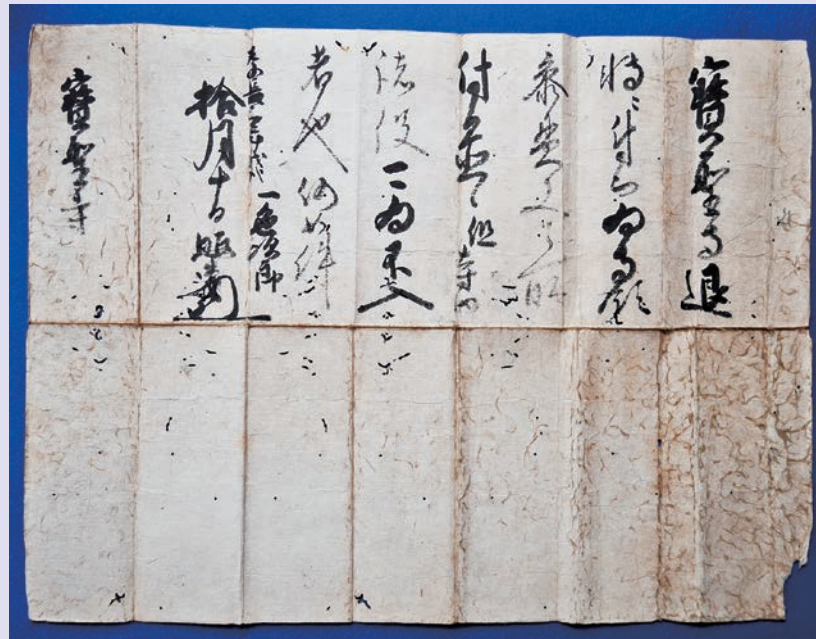
『一色照直寄進状』

一色照直は、戦国時代に古河公方足利家の重臣で幸手城主でもあった一色直朝（月庵）の子である一色義直の次男です。時期は不明ですが、父の義直から家督を譲られ、義直が徳川家康から与えられた幸手の5, 160石の領地を継承しています。

照直は、慶長5年（1600）6月、徳川家康による会津城主の上杉景勝征伐のとき、老齢の義直に代わって家康に従い、その後は徳川秀忠の小姓として仕えています。さらに、慶長7年（1602）には上杉征伐の功により、近江国（滋賀県）に2, 000石が加増され、合わせて7, 160石の領地を支配する旗本となりました。しかし、慶長12年（1607）正月に病死し、平須賀の宝聖寺に葬られたとされていますが、その墓石は確認されていません。

この寄進状は、一色照直が領地内の衰微した寺院の復興を図るため、領主として所領を与えた歴史的事実を伝える古文書で、照直が幸手で行った治政の一端を示しています。また、照直が発行した文書は、今のところこれ以外に確認されていません。

このように、「一色照直寄進状」は、江戸時代初期に幸手の領主一色照直が行った事績を今に伝える唯一の史料で、幸手と一色氏との関わりを示す文化財として貴重です。市民の宝がまた一つ増えました。大切に守り伝えていきましょう。



幸手市郷土資料館 利用案内

開館時間

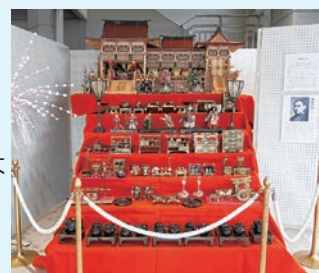
午前9時から午後5時まで
※6月から9月までの土曜日、
日曜日及び祝日は、午前9時から
午後9時30分まで

入館料

無料

休館日

月曜日
(祝日の場合は
その翌日)、
年末年始



「御殿飾り雛」公開中3月22日まで

アクセスマップ



幸手市文化遺産だより 第17号 令和2年3月1日発行

編集：幸手市郷土資料館

〒340-0125 幸手市大字下字和田58-4 TEL 0480-47-2521

発行：幸手市教育委員会



幸手市域には、藁で大きな蛇を模した縄を作り、これを大字などの境目に設置する伝統行事があります。これは、辻縄・辻切り・辻固め・春祈禱・大蛇づくりなどと呼ばれ、4月から夏にかけて行われるのが一般的です。地域に病気など悪いものが入ってくるのを防ぐための行事として実施されています。

ここでは、市域の中央部から東部にかけて、米作りがさかんな吉田地区と八代地区に受け継がれた、藁の文化を象徴する「大蛇づくり」を紹介します。

上宇和田の辻縄

蛇4体と人形1体を作ります。大蛇には鑑札をつけます。鑑札には通行許可証の意味があり、これがあれば地区内に入ってきた悪い病などを大蛇が自由に追い回すことができるそうです。



惣新田 三田の春の懇親会（大蛇づくり）

例年、4月の第2日曜日に香取神社で行います。大蛇は4体作り、お神酒を飲ませたあと、惣新田の中新田と九郎右衛門の境目、上宇和田と西関宿の境目にそれぞれ設置します。



惣新田 九郎右衛門の辻切り

4体の大蛇を作ります。大蛇を綯う際、木や鳥居に吊さず手で持って作るため、綯う方も、持つ方もかなりの力仕事です。綯う作業が終わると、大蛇の「こけら」を整え、目・赤い舌・触角を付けます。



惣新田 上沢目喜の辻切り

厄除け・悪魔退散のため、3体の大蛇を作り、隣り合う惣新田高須賀、惣新田下沢目喜、惣新田南杉山との境目に1体ずつ置きます。大蛇づくりの後は、受楽庵の本堂で百万遍念仏を行います。



神扇 春季神楽祭の大蛇づくり

地区の五穀豊穡・無病息災を祈る行事で春祈禱ともいいます。出来上がった大蛇は、細い竹棒にとり付けられ、大きな草履と木のお札を添え、平須賀と平野との境に立てられます。



平須賀 中株の辻縄

4月と7月に辻縄作りが行われます。当番の家が前年の秋に手刈りした大束2把の稲藁で、1体の大蛇を作ります。上株との境に置かれ、悪い病気が入ってこないように見張る役目をします。



平野 辻固め

地区に悪いものが入ってこないようにするため、隣り合う中野と下吉羽との境目に1体ずつ大蛇を置きます。大蛇づくりの後は、香取神社の境内にシートを敷き、百万遍念仏を行い、悪疫退散を願います。



戸島 上戸の蛇打ち・蛇引き

例年8月の第一日曜日に、香取神社で蛇打ちが行われます。この地区の大蛇は1体ですが、鳥居を使って作られるその長さは30mに及びます。



蛇引きは、例年8月13日の早朝に行われます。地区の東にある香取神社から、西にある正明院まで運び、本堂を一回りした後、倉松川まで運びます。



蛇打ちと蛇引きの一連の行事は、地区に流行り病が入ってくることを防ぐために行われるものです。

「米どころ」幸手では、このように「藁の文化」が今なお受け継がれています。

近年では、農家が減り、大蛇づくりに欠かせない藁の確保に苦労する地区もありますが、どの地区も伝統行事を後世に伝えようと一生懸命頑張っています。

春の暖かな日差しの中、田園風景を楽しみながら、大蛇探しの散策をしてみたいいかがですか。